



巻頭言 河田恵昭教授退職記念号に寄せて

その他のタイトル	Foreword
著者	小澤 守
雑誌名	社会安全学研究 = Safety science review
巻	6
ページ	?-?
発行年	2016-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10112/00018610

河田恵昭教授退職記念号に寄せて

関西大学社会安全学部の創設準備段階から創設以来6年目の今日まで、その卓抜な発想と行動力で学部・研究科をリードされた河田恵昭教授が本年3月にご退職になる。

河田教授は京都大学工学部土木工学科をご卒業後、大学院工学研究科土木工学専攻修士課程、博士課程を修められたのち、昭和49年4月に京都大学防災研究所に助手として着任、昭和51年助教授、平成5年教授に就任された。平成8年には前年1月17日の阪神・淡路大震災を契機として設立された同研究所巨大災害研究センターのセンター長に就任され、巨大災害に対する防災・減災研究をリードされた。その後、平成14年より阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターのセンター長を務められ、現在に至っている。

これまでの研究成果は、単著、共著合わせて70冊以上、論文約700編、社会安全学部教授時代だけでも招待講演680回以上と卓越している。学会の学術賞はいうに及ばず多数の表彰を受けられ、中でも防災功労者内閣総理大臣表彰、国連SASAKAWA防災賞は特筆すべきものである。

河田教授が関西大学環境都市工学部に着任されたのは平成21年4月。直ちに新学部（現在の社会安全学部）創設準備に参画され、その高い見識と豊富な経験、業績に基づいて、学部・研究科の理念、教育目標、設置申請書作成、教員人事などすべての局面において主導的役割を果たされた。

学部・研究科（修士課程）創設準備の進捗とともに、平成21年10月には社会安全学部学部長予定者、翌年4月の創設時には学部長・研究科長に就任、その後、2年半に亘って学部・研究科を牽引された。創設以来1年を経過しようとした平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、随伴した大津波による甚大な被害、さらには地震と津波に起因する電源喪失に端を発した複数機での炉心溶融状態となった福島原発事故など、社会安全学部・研究科にとっても非常に大きな衝撃であったが、様々な観点からの研究を促進するきっかけともなった。河田教授は、率先して現地調査を行われたのはもちろんのこと、政府が設置した東日本大震災復興構想会議委員、中央防災会議の東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会座長としても活躍された。河田教授の行動力とその質の高さ、展望の広さは他に比べようもないといえるだろう。

社会安全学部においてもまた、河田教授は卓抜な発想と行動力で教員組織をまとめられた。その結果、社会安全学部は各教員個人としての、また学部教員組織としての活動力の高さでは関西大学の中で群を抜く存在になっている。その活動は、ある意味で河田教授の長年にわたる防災・減災研究と強烈な個性を発揮する「河田恵昭」由来のものであり、また一方で河田教授を交えた創設準備委員会での広範かつ深い議論によって積み上げられた新学部構想、換言すれば関西大学社会安全学部・研究科の設立理念によって裏打ちされたものであるといえよう。その適切性、先進性は創設以来6年、東日本大震災以来5年を経過してもゆらぐことなく、広く社会に認知されつつあるといえるのではないだろうか。

長年にわたる河田恵昭教授の足跡および提唱されている「総合防災」の一端を垣間見ていただくこ

とをもくろんで、本号では同教授の経歴とその研究業績を取りまとめ、題記のように退職記念号とした。同時に、本社会安全学部・社会安全研究科の一つの地平を感じ取っていただければ幸いである。

2016年2月

関西大学 社会安全学部長・
社会安全研究科長
小 澤 守